

ダニエル書 - 第二百二十九号

預言的意義を解き明かす：共和主義の角と終末の動向

Jeff Pippenger

2024-03-11

私たちはダニエル書11章40節を考察しており、共和主義の角に関連する40節の預言の線を取り上げています。私たちは、その適用を1989年に到来した終わりの時に基づけています。その線は、1989年から間もなく施行される日曜法に至る歴史を表しており、また、教皇制が初めて権勢を与えられ、オルレアン公会議で日曜法を施行した508年から538年までの預言的期間によっても型示されています。さらにそれは、キリストの誕生からそのバプテスマに至る期間によっても型示されています。

また、これらの流れに、ダニエル書11章2節に見いだされる預言史の流れを加えています。そこでは、1989年の「終わりの時」以後のアメリカ合衆国の6人目の大統領がドナルド・トランプであり、その節によれば、彼は2016年の選挙において、ギリシャの全土（グローバリズム）を「奮い立たせる」（目覚めさせる）とされています。

それから私たちは、竜・獣・偽預言者の三者連合に関わる預言的特性について考察し始めた。この三つの勢力は、1989年以降、世界を、神の大いなる日の戦い、すなわちハルマゲドンにおいて迎える恩恵期間の終結へと導いている。私たちは、黙示録13章の地の獣にある共和主義の角の政治的特質を識別するために、これらの預言的特性を検討している。共和主義とプロテスタント主義という二本の角は、ダニエル書8章では、メディアとペルシャの雄羊の二本の角として表されていた。

そのとき、私は目を上げて見ると、見よ、川の前に二本の角を持つ雄羊が立っていた。二本の角はともに高かったが、一方は他方よりも高く、その高い方は後から生えた。
ダニエル書 8:3.

メディアとペルシャは二重の権力であり、フランス革命期のフランスもそうであり、アメリカ合衆国もそうである。アメリカ合衆国の二本の角は共和主義とプロテスタント主義だが、二本の角を持つ地の獣は、その初めには子羊のような獣であったのが、終わりには竜のようにものを言う獣へと変わる。角に関する二つの預言的筋道は、ダニエル書11章40節において互いに並行しており、合わせて考えると両者とも1798年の「終わりの時」に始まる。角を個別に調べると、プロテスタント主義の角は預言的に1798年の「終わりの時」と結び付けられ、共和主義の角は1989年の「終わりの時」と結び付けられる。

両方の角は、キリストの時代のサンヘドリンがサドカイ派とパリサイ派から構成されていたことに典型的に示されるように、二重の性質をもっている。サドカイ派はリベラルで、パリサイ派は保守的であり、彼らは公然の敵同士であったが、十字架においてキリストに敵対して一致した。間もなく到来する日曜法においては、背教的なプロテスタント主義と背教的な共和主義という二本の角が、キリストに忠実な第七日安息日を守る者たちに対抗して政教一致の関係を築くことになる。しかし、二本の角が地の獣の歴史を進んでいくにつれ、それぞれの角は、サドカイ派のリベラリズムとパリサイ派の保守主義に象

徴される内部的な対立を抱える。

私たちは今、共和主義の角を考察しており、民主党はその起源をアメリカ合衆国の歴史のごく初期にまでさかのぼることに留意しておきたい。民主党は1828年に結成されたが、その政治的起源はトマス・ジェファソンとジェームズ・マディソンにまでさかのぼる。メディアとペルシアの二本の角の証言によれば、共和党は1854年に、民主党の奴隷制擁護の立場に反対して設立された。したがって、それはダニエル書第八章における「より高い」角であった。というのも、それは最後に生えてきた角だったからである。

共和党の角の二重の性質に関して言えば、最初に台頭したのは民主党で、最後に台頭したのは共和党であった。共和党を生み出した争点は、民主党の奴隷制擁護の立場に対抗する奴隷制反対の立場であった。両方の角に共通するテーマはいずれも、政治的あるいは霊的な奴隷制である。だからこそ、1863年は両方の角にとっての転機となった。1863年、共和党の角は奴隷の自由を宣言し、その自由への民主党の抵抗は、正式な共和党だけでなく、米国の南北戦争も生み出した。1776年、アメリカ合衆国は声を上げ、ヨーロッパの王たち（国家統治）とローマ教皇（教会統治）の双方による奴隷化を拒絶した。ついで1789年、合衆国憲法が発効すると、アメリカ合衆国は声を上げた。地の獣は、教皇と王権によるヨーロッパの迫害という洪水を、事実上「飲み込んだ」。

そこで蛇は女を押し流そうとして、口から洪水のような水を吐き出した。すると地は女を助け、地はその口を開いて、竜が口から吐き出した洪水を飲み込んだ。竜は女に激しく怒り、神の戒めを守り、イエス・キリストの証しを持つ彼女の子孫の残りの者たちと戦おうとして出て行った。黙示録 12:15-17。

そして1798年、聖書予言における第六の王国としてアメリカ合衆国が誕生したとき、アメリカは再び語り、そのことによって、終わりにアメリカが語る内容を記録に残した。というのも、イエスは常に初めをもって終わりを示されるからである。地の獣は、間近に迫る日曜法の時に竜のように語るようになっており、そうするとき、それは聖書予言における第六の王国であることをやめる。1798年に聖書予言の王国としてその初めに語ったことは、竜のように語るときに再び語ることを表している。

1798年の移民法は「外国人・治安諸法 (Alien and Sedition Acts)」と呼ばれ、1798年にアメリカ合衆国議会で可決され、ジョン・アダムズ大統領が署名して成立した四つの法律の総称である。これらの法律は主としてアメリカ合衆国に居住するalien（外国人）に関する問題を扱い、当時の移民に大きな影響を及ぼした。四つの法律は次のとおりである：

1798年の帰化法：この法律は、移民が米国市民になるための居住要件を5年から14年に延長した。これにより、移民が市民権を得て政治過程に参加することがより困難になった。

外国人友人法：この法律は、平時において「合衆国の平和と安全にとって危険」と見なされる非市民を大統領が国外追放することを認めた。大統領に外国人を追放するうえで大きな裁量を与えた。

敵国人法：この法律は、戦時中に敵対国の男性市民を逮捕・拘束し、国外追放する権限を大統領に与えた。主として、敵国の潜在的なスパイや破壊工作員を対象としていた。

セディション法：移民と直接の関係はないが、セディション法は、米国政府、連邦議会、または大統領を中傷し、あるいはその信用を失墜させる意図をもって、虚偽、スキャンダラス、または悪意のある記述を公表することを犯罪とした。これは政治的な異議や批判を抑圧するために用いられた。

1798年に第六の王国としてのアメリカ合衆国が始まったときの外国人・治安諸法の本質は、ドナルド・トランプとそのMAGA支持者の意図を明白に示している。これらの諸法は「最初の」語りであり、地の獣がその「最後」に竜のように語る時、法律は非常に似たものになるだろう。現在の歴史的環境が、これらの法が繰り返される論理を完全に反映しているという事実は、アルファでありオメガであるキリストのしるしである。1863年、地の獣の「語り」のただ中に、共和党初の大統領による奴隷解放宣言があった。

奴隷解放宣言は南北戦争のまさに中間点を画し、したがって、ヘブライ語の「真理」という語の定義は、地の獣の語りにおける三つの道標の中に見いだされる。ヘブライ語アルファベットの最初の文字は最後の文字と同じであり、第十三番目の文字は反逆の象徴である。

この時点で考慮すべきは、1863年とそこで特定された反乱が、共和党の角が政治的反乱を示していたのと同時に、プロテスタントの角によって表されるラオデキアのアドベンチスト教会においても成就していたという点である。プロテスタントの角の二重性は、フィラデルフィアのアドベンチスト運動がラオデキアのアドベンチスト教会へと移行したことによって示され、共和党の角の二重性は、民主党の奴隷制支持の立場と、そこから生じた奴隷制反対の共和党および最初の共和党大統領をめぐる論争において明らかにされた。

最初の共和党の大統領は、「真理」の三段階の預言的なしるしの中央に位置づけられている。したがって彼は第一の時期の終わりであり、第二の時期の始まりである。ちょうど、十字架がキリストの三年半にわたる個人的な奉仕の終わりであり、同時に弟子たちを通して行われた彼の三年半の奉仕の始まりでもあったのと同様である。彼の個人的な奉仕の始まりは彼のバプテスマであり、それは象徴的に彼の死を表しており、その期間は彼の死で終わった。彼の死は弟子たちの奉仕の始まりとなり、それは彼の弟子ステファノの死をもって終わった。

1798年にAlien and Sedition Actsが『語られた』ことは、Emancipation Proclamationが『語られた』ことで終わった一つの期間の始まりだった。Emancipation Proclamationは、アメリカ合衆国が竜として『語る』ときに終わる第二の期間の始まりを告げた。1863年に『語った』大統領は最初の共和党の大統領だった。したがって、最後の大統領もまた共和党の大統領となるだろう。

黙示録14章の三天使によって生み出される運動は二つある。第一天使と第二天使のメッセージはミラー派運動によって宣べ伝えられたが、その運動は反逆して1863年に正式な教会となった。イエスはいつも、物事の終わりをその始まりによって示す。第三天使の運動は、黙示録18章の力ある天使でもあり、三天使の二つの運動のうち最後のものである。1798年に真のプロテスタントの角の運動として始まったものは、1863年の反逆において教会へと移行し、そして、まもなく到来する日曜法において地の獣の歴史が結末を迎える

とき、1863年の反逆によって生まれた教会は非公式の運動へと再び移行する. というのも、運動として始まったものは運動として終わるからである.

初めと終わりにおけるプロテスタントの角の移行において、運動は教会へと変わり、そして最後には再び運動へと戻る. 最初の移行点、すなわち初めには、フィラデルフィアがラオデキアへと変わり、終わりの移行点では、ラオデキアが再びフィラデルフィアへと変わる.

共和党の角にとっての転換点は、南北戦争へと至る歴史であり、そこから共和党が生み出された. プロテスタントの角にとっての転換点は1856年から1863年であり、それは共和党の角にとっての転換の過程と同一であった. 反奴隷制の政党である共和党は1854年に結成され、最初の全国大会は1856年に開かれた. プロテスタントの角にとって反逆の象徴は、教会の法的組織化であった. 共和党の角にとっては、奴隷制擁護の民主党が反逆の象徴である.

2001年9月11日、第三の天使が二度目にカデシュに戻り、十人の乙女のたとえの預言的構造において、教会から運動への移行が始まった. 十人の乙女のたとえの最終的かつ完全な成就において、2020年7月18日に最初の失望が起こり、同じ年に、1989年の終わりの時以来の六番目の大統領、すなわちギリシアの王国を「奮い立たせる」はずの大統領が、政治的に「致命傷」を負った. これは、共和党の最初の大統領が文字通りの致命傷を負ったのと同様であった.

後の雨の限定的な注ぎは2001年9月11日に始まり、間もなく来る日曜法まで続き、その時には後の雨は無制限に注がれる. 後の雨は上からの力であり、ホワイ夫人は、上から力が降りてくる時には下からサタンの力が上ってくると繰り返し指摘している. 黙示録には、サタンの底知れぬ淵から上ってくる三つのサタンの勢力がある. イスラムは2001年9月11日に底知れぬ淵から上ってきたが、それは第九章の第一の災いにおける底知れぬ淵から立ちのぼる煙と符合している.

第五の御使いがラッパを吹いた. 私は一つの星が天から地に落ちるのを見た. その星に底知れぬ淵の鍵が与えられた. 彼はその底知れぬ淵を開いた. すると、大きな炉の煙のような煙がその淵から立ち上り、その淵の煙のために太陽も空も暗くなった. その煙の中から、いなごが地上に出てきた. 彼らには、地のさそりが持つような力が与えられた. また彼らには、地の草にも、どんな青いものにも、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印のない人々に対してのみ害を加えるように、と命じられた. ヨハネの黙示録 9:1-4.

第一の災いに象徴されているように、第三の災いのイスラムが2001年9月11日に到来したとき、それは神の印を持つ者たちを害することができず、これによって十四万四千人への封印の始まりが示された. 封印の完了は、間もなくアメリカ合衆国で施行される日曜法の時であり、そこで致命的な傷を受け、忘れ去られていた海の獣が底知れぬ穴から上ってきて、七つに属する第八の王国となる.

あなたが見た獣は、かつてはいて、今はいない. やがて底なしの淵から上って来て、滅びに至る. 地に住む者たちのうち、世の始めからその名がいのちの書に記されていない者たちは、かつてはいて、今はいないが、それでもなおいるその獣を見たとき、

驚嘆する. 黙示録 17:8

十四万四千人への封印の預言的期間は、底知れぬ淵から上ってくる一つの勢力によって始まり、底知れぬ淵から上ってくる勢力によって終わる。その歴史の中ほどで、無神論の獣、すなわち「woke」なる竜の勢力もまた、二人の証人を殺すために底知れぬ淵から上ってくる。アルファでありオメガである方は、この歴史にご自身の署名を記された。

そして、彼らはその証しを終えると、底なしの淵から上ってくる獣が彼らに戦いを挑み、彼らに打ち勝って、彼らを殺す。彼らの死体は大いなる都の大通りにさらされる。そこは靈的には「ソドム」と「エジプト」と呼ばれ、わたしたちの主もそこで十字架につけられた。諸民族、諸部族、諸言語、諸国民に属する人々は、三日半のあいだ彼らの死体を見、彼らの死体が墓に納められることを許さない。地に住む者たちは彼らのことで喜び祝い、互いに贈り物を送り合う。というのも、この二人の預言者が地に住む者たちを苦しめていたからである。ところが、三日半ののち、神からのいのちの霊が彼らのうちに入り、彼らは自分の足で立ち上がった。それを見た者たちの上に大いなる恐れが臨んだ。黙示録 11:7-11.

2020年、共和党の角と真のプロテスタントの角は、無神論の政治的な竜の力と靈的な竜の力によって、それぞれ殺害された。彼らはその後、三日半と表される期間、死んでいたが、そののち立ち上がり、竜の力として表される者たちの上に大いなる恐れが臨んだ。ドナルド・トランプの政治的な力の再浮上をめぐって進歩派の民主党員たちが現在示している恐れは、預言の成就である。Future for America の働きに従ってきた人々が表明している「恐れ」は、別種の恐れを表している。

Future for America のメッセージを恐れるべき者は、ラオデキヤのアドベンチストであり、彼らは皆、本来、十四万四千のうちに加わるように召された者たちである。だが、確固たるラオデキヤの者として、すなわち「まむしのすえ」と「姦淫の世代」と呼ばれる第四の世代に生きる彼らには、恐れというものがない。彼らが抱くべき恐れとは、「神を恐れ、彼に栄光を帰せよ。彼の裁きの時が来たからである」と人に命じる永遠の福音である。

その時とは大地震の時であり、その大地震は、十四万四千人のうちの二人の証人が旗印として高く掲げられるとき、まさにラオデキヤの教会が主の御口から吐き出されるその時に起こる。

次の記事でこの研究を続けます。

「彼らはその証しを終えると、底なしの淵から上ってくる獣が彼らに戦いを挑み、彼らに打ち勝って、彼らを殺す。彼らの死体は大いなる都の大通りに横たわる。その都は靈的にはソドムとエジプトと呼ばれ、そこでまた、私たちの主も十字架につけられた。」 [ヨハネの黙示録 11章7、8節]

これらの出来事は、証人たちが荒布をまとって証言した期間の終わり近くに起こるはずであった。サタンは教皇制を手段として、教会と国家を統べる権力を長い間支配してきた。その恐るべき結果は、宗教改革の光を拒んだ諸国において、とりわけ明白であった。そこには、滅ぼされる直前のソドムの有様や、モーセの時代のエジプトに蔓

延した偶像崇拜と靈的暗黒に類する、道德的墮落と腐敗の状態が見られた。『預言の靈』第4卷、190頁。